



(財)財務会計基準機構会員



平成 23 年 12 月 20 日

各 位

長野県伊那市西箕輪 2148 番地 188
株式会社イナリサーチ
代表取締役社長 中川博司
(コード番号: 2176)
問い合わせ先: 執行役員 社長室長 野竹文彦
電話番号 0265(73)6647

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 23 年 11 月 8 日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 平成 24 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株あたり 当期純利益 |
|--------------------|--------------|------------|------------|-----------|-----------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 3,864 | 百万円 177 | 百万円 128 | 百万円 71 | 円 銭 2,350.77 |
| 今回修正予想(B) | 3,049 | 56 | 15 | △75 | △2,489.06 |
| 増減額(B-A) | △814 | △121 | △113 | △147 | - |
| 増減率(%) | △26.7 | △216.2 | △737.3 | - | - |
| (ご参考) | | | | | |
| 前期実績(平成 23 年 3 月期) | 3,937 | 129 | 74 | 21 | 715.89 |

(2) 平成 24 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株あたり 当期純利益 |
|--------------------|--------------|------------|------------|-----------|-----------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 3,864 | 百万円 164 | 百万円 117 | 百万円 64 | 円 銭 2,117.94 |
| 今回修正予想(B) | 3,049 | 32 | 7 | △296 | △9,766.57 |
| 増減額(B-A) | △814 | △132 | △109 | △361 | - |
| 増減率(%) | △26.7 | △406.2 | - | - | - |
| (ご参考) | | | | | |
| 前期実績(平成 23 年 3 月期) | 3,937 | 121 | 93 | 47 | 1,576.73 |

(3) 修正の理由

①通期連結業績予想

当社の主力である非臨床試験事業につきましては、国内大手製薬会社の主力薬が特許切れになるいわゆる「2010年問題」を背景とした非臨床試験委託の絞込み、新薬開発に関わるガイドラインの変更に伴う長期試験の減少などにより、非臨床試験市場の過半数を占めていた安全性試験（いわゆる「毒性試験」）が減少し、価格競争の激化と相まって売上及び収益を圧迫しております。当社は短期試験の獲得と平成25年3月期（以下「来期」）売上予定試験の前倒し等により平成24年3月期（以下「当期」）売上の上積みを図ってまいりましたが、ここで当期につきましては今後大幅な売上の上積みは困難と判断いたしました。

環境事業につきましては、平成23年3月期（以下「前期」）に飼育機器の大型案件に経営資源を

集中し860百万円の売上を計上いたしましたでしたが、当期は大型案件がなく、受注も低迷いたしました。脱臭装置や殺菌洗浄水製造装置の集中営業により挽回に傾注してまいりましたが、当期につきましては前期比約700百万円の売上減を余儀なくされる見込みであります。

臨床試験事業につきましては、新規分野である医薬品臨床試験において念願の受注を獲得し、大規模試験も含めた引合も活況を呈しておりますが、当期の売上・収益への貢献は軽微に留まります。

以上のことから、当期の売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は、前回発表した業績予想を下回る見込みとなりました。

なお、徹底した経費削減努力により、売上高の減少にもかかわらず営業利益、経常利益は収益ベースを維持しておりますが、資産効率の向上と財務体質の強化を目的として、フィリピンにおける子会社施設の譲渡を決定したことから、77百万円の特別損失が発生し、75百万円の当期純損失を計上する見込みとなりました。

②通期個別業績予想

フィリピンにおける子会社施設の譲渡に伴う特別損失を計上することにより当期の子会社純資産が低下することから、個別業績において子会社株式評価損292百万円が発生し、296百万円の当期純損失を計上する見込みとなりました。但し、子会社株式評価損につきましては、連結計算上で消去されることから、連結業績への影響はありません。

売上高、営業利益、経常利益につきましては、連結業績の修正理由と同じであります。

[フィリピンにおける子会社施設の譲渡]

詳細につきましては、本日開示させていただく「子会社の固定資産譲渡並びに特別損失の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

[業績予想に関する注意]

本業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上